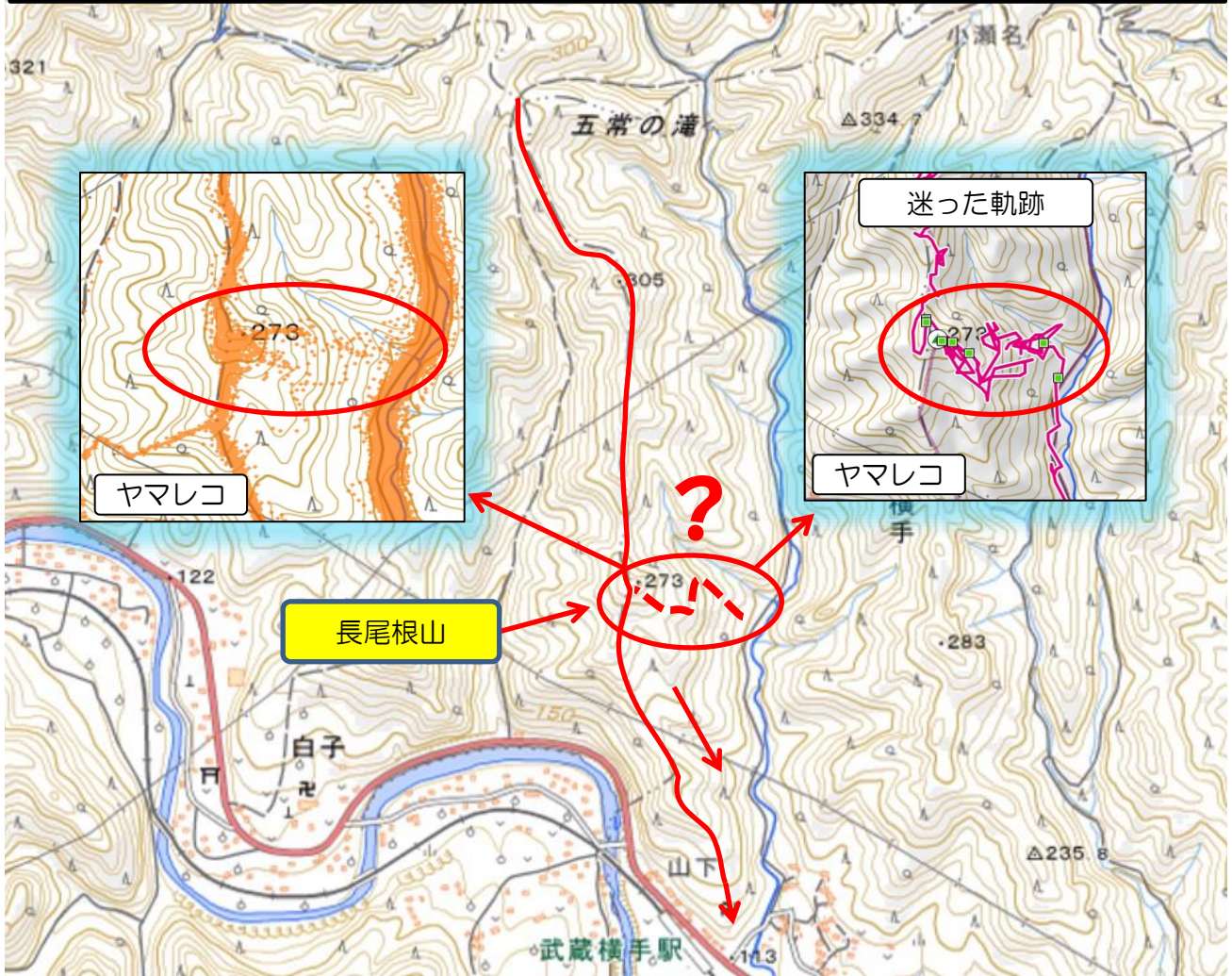


長尾根山道迷い(2022年10月)

2人で登山。下りで、道が不明瞭になり長尾根山ピークから東の斜面に迷い込む。ピンクテープを頼りに下るも不安で信用できない。尚もそのまま下り林道へ出た。



解説

里山で道が無くなるもそのままピンクテープを頼りに下山を続けるパターン。地図アプリを使用しているので、地図アプリを見れば違う斜面を下っているのが分かるようなものだが、道迷いの心理はそれを確認させてはくれない。

「あれっ？おかしい？」と思ったときに、地図アプリがあれば冷静になって「現在位置の確認！」をしよう。次にルートが主尾根通しであれば、斜面を下ることはないと思うのだが・・・。

今回の事例は、よくあるものの読図の技術不足とコンパスを使えないことが起因していると考えられる。「南側に延びている主尾根をそのまま進む」と先読みし、コンパスを使うことができれば、「東側の斜面を下るのはおかしい！」という矛盾を見出すことは難しいことではないと思う。

ブッシュで道が不明瞭になったり、秋の落ち葉で道が不明瞭になったりすることはマイナーな山ではよくあること。道が亡くなった時こそ地図アプリで現在位置を確認し、行き先をコンパスで示す。この2つの動作をすれば道迷い件数は激減すると思っている。

せっかく使えるもの(地図アプリ、コンパス)があるのに使わないで道迷いをするのは残念で仕方がない。一番難しいことは「当たり前のことを、当たり前のように行うこと。」である。